

第4回 倶知安町景観計画・緑の基本計画検討会議 議事概要

◎日 時	令和2年12月25日（金） 午後2時00分～午後4時30分
◎場 所	倶知安町役場 2階
◎出席者	策定委員会：矢吹座長、辻井委員、大萱委員、高岸委員、笠間委員、古谷委員、佐藤委員、 大久保委員、峠ヶ委員 ※ 欠席（カー委員、坂井委員、山田委員） 傍聴者：2名 事務局：まちづくり新幹線課 遠藤景観室長、星加景観係長、八田主事 コンサルタント会社：㈱KITABA 窪田、百瀬



1. 開会

2. あいさつ（座長）

（矢吹座長）

- ・ 昨日まですごく良い日を過ごしていたのに、今日は朝から大雪で倶知安だなと感じる。今回で4回目の検討会議である。当初、素案の状態から資料の1～3について検討会議を重ねて意見をいただき、このような原案が出来上がった。
- ・ 基本的な考えは変わっていないが、抽象的な表現はより具体的になった。1回目はこれからどのように進めていこうかというところだったが、2, 3回重ねて今の資料が出来上がった。
- ・ 各資料について、このようなことを皆さんに伺いたいという項目があるので、それに沿って意見を出してほしい。
- ・ 前はもっとわかりやすい言葉で書いてほしいなどの意見もあった。誰が見てもわかりやすい表現にして、まちの景観がどのような在り方がいいのか、整理していきたい。

3. 議事

(1) 俱知安町の景観特性について（原案）

資料1の内容について事務局から説明

（矢吹座長）

- ・ 資料1について、皆さんの意見を拾い上げて少しずつ形になってきたと説明いただいた。別紙にあるように、意見交換の視点を大切にしながら、資料1について、表現の仕方やほかの視点について意見いただきたい。
- ・ 景観特性について、まちを形付ける要素だと思っているが、自然の環境や生活の環境、その根っこには山や川、森林が生み出すもの、また基幹産業である農業が生み出すものがある。それらが光となって、観光に生きてくる。
- ・ 事務局からの案として、羊蹄山を軸とした階層図がある。今回、雪の視点を別建てにし、各要素に係性を持たせている。この要素について、こんな視点もあつたらよいのではないか、など意見があつたらうかがいたい。

（大萱委員）

- ・ 農業というのが脚光を浴びているが、これはベーシックのものであって、それらが人の産業活動としているが、観光だけが脚光をあびているのに疑問を感じる。産業であれば商業、工業という視点もある。
- ・ スポーツなどの人間の余暇活動が広がりを見せているという視点も大切だと思う。産業という中に、観光、農業だけという整理の仕方はもう少し知恵を絞ってもいいのではないか。
- ・ 観光というのは、近年インバウンドなどで地域経済が活性化したということを受けているのかと思うが、本来観光というのは国の光を観るということで、生活のいいところ、独特の部分を見に来る、他地域の文化の人から見ると新鮮なことを見に来るのが、観光である。
- ・ 観光が大衆化したのはここ何年かの話かと思う。そのようなものがある活動として、あまり光を当てすぎると、自分たちの生活空間を脅かされていると感じてしまう。変わらないものをどのように生み出すかということが大切。お金をかけすぎて作ったものはあまり長持ちしない。変わらないものをどう打ち出すか。地域の人々の生活レベルが上がるものでなければならない。

（矢吹座長）

- ・ 変わらないものをどのように生み出していくか。
- ・ 産業でのくくりの仕方は、もっともっと違う要素も入ってくるのでは？ということ。多くの人たちがこのまちに来て、何を見て何を楽しんでいくかということと景観だという意見が前回出た。今までみたことないようなこと、体験したことないことを体験しに来る。

（大久保委員）

- ・ 2003年からヒラフ地区の開発が本格化して、やっと最近、国際不動産（リゾート地）として成り立ってきた。今の反省としては、当時、まちづくりや海外のリゾート地の在り方を知っていたら、もう

少し進め方があったのかなと思っている。反省の意味もありこのような委員会に参加させていただいている。良い方向に導きたい。

- ・ 観光業は事業体も増えている。スキー場だけでなく、市街地にも直接・間接的に影響が出ているのが現状である。
- ・ 倶知安町の景観特性の捉え方への意見としては、資料1左上文章の中段にあるように、「守り・育て・創り」という観点が大切だと思う。
- ・ 以前の資料で平成18年の花園地域環境基本計画、その後のマスタープランでも、羊蹄山というのが特徴の一つとして挙げていた。また、田園風景があると整理している。スキー場の隣接地で農業をやっているところは他地域にほとんどない。ヒラフのスキー場は農地が隣接し、国内外の事例で見ても特徴がある。
- ・ 先人たちが守ってきたことを、未来につなげていくということが表現されているといいと思う。
- ・ 移住者がたくさんおり多様化している生活環境があるので、どこの文面がいいかわからないが、多様化している生活環境と、それに対する景観をもう一度考える時期に来ていると思っている。

(矢吹座長)

- ・ 景観は人それぞれのとらえ方があると思う。例えば、この委員会のことでこのようにします、とまとめてもそのままではいけない。
- ・ この地域の景色、人々の生活も含めて、それを観に来る方に何を提供できるかということ、普段通りの生活しかない。いろいろな人が入ってきて、生活が多様化している中で、昔から残っている部分が多い。そこをどう捉えて生かしていくか、光としてアピールしていくのか。
- ・ 倶知安町の景観特性の要素階層の中に、産業の中に観光があるが、ここにあるのが良いのかどうか、一つ課題になる。

(古谷委員)

- ・ 資料をずっと見ててピンとこない。倶知安のイメージというと、春夏秋冬を入れて、とりつきやすいように構成すべきだと思う。春夏秋冬でアピールしていくと、そこから課題が見えてくると思う。ここに四季の移ろいが見えてこない。
- ・ 議論するときもある人は冬をイメージして、ある人は夏をイメージしていると話がかみ合わない。

(峠ヶ委員)

- ・ 古谷さんと一緒に、ぼやけていて伝わりきらないと思った。
- ・ コーヒーの豆を説明するのに、シンプルな方が伝わりやすい。倶知安の景観どうなんですか？と言われて答えるときに、シンプルに伝えられる良いなと率直に思う。シンプルというと、じゃが太君が思い浮かぶ。羊蹄山でスキーをするじゃがいものじゃが太君が一番倶知安町の魅力をシンプルに伝えていると思う。

(笠間委員)

- ・ 季節というのはその通りだと思う。資料1のP3で雪を分けたのはわかりやすい。夏のグリーンシーズンも一緒にしてしまってもいいのかとも思う。

- ・ 雪が降るといつもフレッシュなので、雪で隠れてある程度きれいにみえる。春先が一番汚くなる。夏にきれいな風景を保てるかどうかを今後考えていかななくてはいけない。夏に人を呼びたいという観光の面から言っても、夏にどれだけ魅力的な景観をつくれるかが大切である。
- ・ アンケートで市街地の景観に魅力を感じる人が感じない人と半分くらいである。普通は暮らしの周りの風景には愛着があるものなので、半々なのはまずいのではないか。
- ・ 貫くものとして、羊蹄山があるが、ここにニセコアンヌプリが入らなくてもいいのかとも思う。

(矢吹座長)

- ・ 縦軸と横軸があって、春夏秋冬がどすんと突き刺さるような表現ができないか。ベースになるところはぐらつかないようにしっかりと整理すべきかと思う。

(古谷委員)

- ・ どう考えても倶知安町のランドマークは羊蹄山だと思う。ニセコ連邦は連邦で、独立峰である羊蹄山を中心に挙げていいと思う。この地域の活力は羊蹄山山麓、各地域には負けない！というライバル心から各まちが発展してきた。その中心にあるのが羊蹄山なので特別に扱っても良いと思う。

(高岸委員)

- ・ 個人的にはヒラフ地区の建物が景観的にすてきだなと思ったことは一度もない。昔の方が良かったというのが本音である。あのような近代的なものがどんどんと建って微妙だが、観光産業に結び付くのでやむを得ないということもある。
- ・ 普段の生活を見てもらいたいというのは、住んでいる人は思っていないと思う。
- ・ 駅前通りのことに少し触れているが、新幹線の計画では駅前通りはあまりいじらないということなので仕方がないが、新幹線で降り立った人が今の駅前通りを観たらどう思うかと思う。

(矢吹座長)

- ・ それぞれがそれぞれの考えをもってあるわけだから、なじむことができないこともある。昭和45年に出した町民憲章に全て入っている。今と昭和45年では時代が違うが、根っこの部分は変わらない。

(佐藤委員)

- ・ 要素階層を見て、ニセコ連邦がないのは不思議だった。自然・地形に四季の移ろいが載っていないからだなと私も思った。

(辻井委員)

- ・ いろんな角度から丁寧に整理していただいたと思う。その中で、資料1の景観特性と資料2は少し切り口が違う。資料1は横切り、資料2は縦切りで整理していると思う。
- ・ 基本方針の根拠が資料1と資料2なのだと思う。資料1と資料2の考え方を合わせたものが資料3でしっかりと整理されていると良い。資料1と資料2の総括として、現況と課題が整理されると、きめ細やかな現況と骨太の骨格が見えるのではないか。

(矢吹座長)

- ・ 現状の資料1の整理には季節感がない。春夏秋冬が一つまたキーワードになるかもしれない。根っこにあってもいい。
- ・ 冬は常に雪が降りフレッシュな印象だが、夏に清々しい風景を保っていくのが課題になるのでは？とのこと。
- ・ 観光というのは光をみること。光はまちの暮らしや産業を見てもらうこと、それをどのように景観の特性のなかで位置づけていくのか。
- ・ これだけいろいろな人が入ってきている中で、スキー場に農地が隣することはとても特徴的だと改めて思った。歴史的なものと近代的なものが隣接している。
- ・ 変わらないものをどのように守り、生み出していくか。
- ・ 資料1と資料2というものがそれぞれの関係性を持ちながら、資料3につながっていくことを意識してつくる。
- ・ 農業という元々倶知安の基幹産業としてあったものと、そこにプラスされるような観光という見せ方がもしかしたらふさわしくないかもしれない。産業はほかにもあることを再整理できればする。

(2) 地域ごとの景観要素と課題について (原案)

資料2の内容について事務局から説明

(矢吹座長)

- ・ まだ名称として残っている停車場線という名が駅前通りの通りである。
- ・ 皆さんだからわかる景観要素をもっとみなさんから出してほしい。また、公共性の高い視点場や景観上重要な資源について意見はないだろうか。
- ・ 来年ニセコでフットパスの大会がある。景観資源としてそのような場所がいくつか存在すると思う。フットパスコースのように、道路以外でも線というものがあるかもしれない。
- ・
- ・ 3回目の会議で農業関連の人の意見も聞いた方がいいという意見もあった。農業委員会の人に事務局で意見を聞き、例えば樺山地区の農振地域の農業後継者についての課題や農村地域の空き家などについて意見ももらったが、5つの地域で地域資源保全隊という取組がある。北部東、八幡、富士見・高砂、寒別、巽・豊岡であり、要するに東の地域である。草刈りや植栽をしており、何年間か補助を受けて取組むというものである。とてもいい取り組みだと思う。
- ・ 市街地のコミュニティの中でも、クリーン作戦を行うなど色々な取組をしているが、農業地域や市街地地域という分けでなく、地域資源保全隊の取組と合体していくと、日々の生活の中でちゃんとしていかなきゃいけないという意識が芽生えるような気がする。
- ・ 一人一人が気を付けるようになってエリア全てが綺麗になるというのが理想的かもしれないが、雑然としているよりも、人々が活動しているんだという雰囲気が残っている方が、良いと思う。
- ・ 地域資源保全隊の活動を農家の人たちが見て、それでは足りないから自分たちも草刈りや種を蒔こうとなってくれたら良いと思った。
- ・ 季節になるとマイクロバスで乗り付けて、農業景観の写真を撮るためにツアーでくる人達が畑にどんどん入って来るようだ。そこで行政と農業委員会で連携して結構な数のマナー啓発のための看板を建

てた。そうしてら農家の人たちからも、看板だらけになったら景観どころではないという意見が出て、逆に農家の人たちが景観のことを心配する事態になった。

- ・ ジャがいもの病気の話を農家の人が話していた。畑に人が入って病気を持ってこられたら、自分たちは壊滅的に打撃を受けると。ただ、ジャがいもの花が咲いたり、ビートの成長を写真に撮りに来るのは自分たちも良いと思うと言っていた。
- ・ また、田植えの時期になったらこちらにもバスで乗り付ける写真ツアーの人たちもいる。水辺に映る羊蹄山の姿を撮りに定期的に来る。嫌だなと思う反面、自分たちがそのようなところで生きているのだということは、農家の方たちも感じている。
- ・ 農業後継者をどうするのだという課題について、みなさんの意見を聞くことはできるが、景観計画での位置づけをどうするかというのは無理かもしれない。ただ、農業委員会の方々が課題などについて声を挙げているのにみんなに届いていないという現状に対しては、景観という事を通して農業地域と市街地地域の方々がコミュニケーションをとるようになれば、改善されるかもしれない。
- ・ 資料の農業森林地域にある課題を、それ以外の地域に住んでいる人たちに注目してもらえるようなことも、今回の計画でできると思う。
- ・ 夏の景観を形作るものはなんだろうという意見があったが、重要な要素になってくる気がする。その辺りや青字で記載した課題も含め、意見を頂きたい。

(佐藤委員)

- ・ 今まで石蔵倉庫の話も出ているが、あそこを一つの賑わいの拠点にできないかという話は少し出ている。
- ・ 市街地地域の部分だが、青字の中の真ん中、これまでの駅前通りの風景の更新が進むことを町民は望んでいる。新幹線が開業してすぐに駅前通りがきれいになるということもないと思うので、開業後塩漬けされた土地がずっとそのままということも想定され、不安要素ではある。
- ・ 写真が小さすぎて、どこの写真かわからない。また、景色の写真は現段階のものということでもいいのか。最終的にはもっと写真を吟味して計画に載せて欲しい。

(矢吹座長)

- ・ かなり古い写真もあるので、みなさんから写真を提供していただいても良い。

(古谷委員)

- ・ このような文章ばかりみるのは個人的に嫌だ。
- ・ 見たくなる景観資源として、合祀してしまった神社などもあるが、そのような風景も大切だと思う。
- ・ 開拓の歴史の中で、かつてこのようなものがあったということやこのようなところで生活していたんだとわかる。そのような情報があると親近感を持って見れる。特に神社や“馬頭観音”に関しては、次世代に伝えるべきで掲載するといい。

(矢吹座長)

- ・ 岩尾別、南4条東4丁目のところ、高砂の3か所に祀られている。なぜ、そこに作られたかは歴史的背景がある。

- ・ 旧国道5号沿いには神社があったが、朽ちてしまった。

(古谷委員)

- ・ 小学校跡地も忘れ去られつつある。

(矢吹座長)

- ・ 倶知安町の場合、幸い小学校跡地が残っている。

(古谷委員)

- ・ イワオヌプリの硫黄鉱山も残すべきである。

(矢吹座長)

- ・ 古と今をつなぐものがどこかに必ずある。鉄道の公園もそうで客車が公園にある。そのように歴史的な要素が入ってくるといいかもしれない。

(大久保委員)

- ・ みなさんのお話を聞いて、よくわかったことがある。自分はニセコひらふ地区での仕事の中心だったが、もともと地域に様々な歴史があって、開拓したころ、子どもころ、そのころから比べると今は変わっているものがあり、いろいろなスポットがあるが、それらが触れられていないというのが血が通っていない感じがする要因かもしれない。
- ・ ここは改めて先人がどうしてこのような良い田園風景を形成したか、道路が通ったか、をもっと盛り込んだ方がいいと思う。
- ・ 資料2の要素と課題だが、次の資料3のようにこうしようというものが先にないと、課題が定めづらいつら思った。
- ・ 市街地、リゾート地、農業森林地域という3つの地域を分ける概念はいいと思うが、リゾート地という抵抗感がある人もいると思うので、名前を再考するといいい。森林農地地域は森林・田園エリアなど名前を和らげると良いのではないか。

(矢吹座長)

- ・ ここはこの地域の発祥の土地だから、大切にしなきゃいけない、石像があるので、ここは歴史的に大切にしなきゃいけないなど、歴史的な背景をもう少し意識した方がいいと思う。
- ・ 名称は確かにそうである。農業や森林でひとくくりでなく、名称も再考するとよい。

(辻井委員)

- ・ 森林地域の区分だが、国有林や国定公園や国立公園のエリアは入れておいた方がいい。また、景観上で問題になるのは、民有林である。開発してしまつて、いきなり無残な景観になることがある。
- ・ 北海道で出している「北海道自然環境保全指針」の、「すぐれた自然地域」や「身近な自然地域」くらいのニュアンスで分けておいた方がいいのではないか。
- ・ 現況と課題の中に、石蔵倉庫のことを記載し歴史資源があるということに触れておいた方がいい。

(笠間委員)

- ・ 八幡のビューポイントパーキングは素晴らしい。羊蹄山を望むことができ、周囲に農業のエリアがあり、市街地の外れでもある。あのあたりに居住されている方々はとてもいい環境に住んでいて、倶知安の理想的な暮らしの姿かと思う。リゾート地にもそのような場所があるといい。目指すべき地域らしさというものがわかる例が地域ごとにあるといい。

(峠ヶ委員)

- ・ 景観要素は神社の話のように、見た目だけでなくそれぞれ背景となるストーリーがあると思うので、それを絡めた整理をしてほしい。
- ・ 硫黄鉱山跡に視点場に加えるといい。硫黄鉱山を軸に考えるとワイスホルンに鉱山の人が通っていた跡があるので、朽ちる前に残していきたい。
- ・ 自然散策路もそうだが、自然にかかわるところは自然の専門的な知識を持った方がいた方がいい。

(矢吹座長)

- ・ 文化財調査委員会でも鏡沼を天然記念物指定するかどうかの話も出ている。
- ・ 素晴らしい自然と身近な自然。そのあたりは歴史的な背景の視点も入ると、具体的で見やすくなると思う。

(3) 景観の基本理念、基本方針、地域区分、分野別方針について（素案）

資料3の内容について事務局から説明

(矢吹座長)

- ・ 過去、現在、未来にたいする姿勢の整理はいいと思う。未来に対しては「規制」という言葉が入ってきてもいいかもしれない。
- ・ 理念について、景観計画で伝えたいことを一言で表現するには、どんな言葉がいいか、みなさんに考えてきてもらいたい。

(大久保委員)

- ・ 資料3については、4の「住みよい生活環境」のところで、人とのつながりや交流の後ろに、「思いやりのもてる景観文化を育て」を入れると生活している人と景観を近づけることができるのではないかな。
- ・ 資料2については、各地域については歴史的な文化や重要なポイントをこれに足してもらえるといいと思う。次のまとめも見やすくなると思う。
- ・ 資料1の要素階層の図はこれを一本ではなくて、下を2つにわかれるようにして、生活からと産業から羊蹄山に伸びているように見せてはどうか。
- ・ 豊かな緑と水はつながりが強い。農業の景観が良いとはよくいわれるが、農家さんとしては、それだけを言われるのは残念で、彼らの作る農作物の恵みを大切にするからこそ、景観がある。景観だけでなく、彼らの作る食についても踏み込めると農家さんへの景観の意識づけにもつながるのではないかな。

(矢吹座長)

- ・ 時間が無く資料3についてはあまり意見をもらえなかった。みなさん内容を検討していただき、何かあれば事務局に伝えてほしい。
- ・ 3回目の検討会議よりも突っ込んだ議論ができたと思う。検討委員会で話し合ったことは常に宿題として持ち帰ってほしい。

4. その他

5. 閉会